

北蝦夷圖說

南方初島部

二

ル 4

3002

2

凡4
3002
卷 2

北蝦夷圖說卷之二



南方初島人物之部

常陸 間宮倫宗口述
備中 秦 貞廉 編

一 此島の人物南方凡百五十里の間を大抵蝦夷島と異るたは
 たりと云ふ其眉毛連續せざる者もあつて鬚も薄きふ
 似たり頭髮の禿禿せるやと多く其垂髪^{いけ}の状も亦蝦夷島
 小比^{いけ}は長し其耳飾の環^{かみ}ハ蝦夷島と異るたは
 一 女夷の文身蝦夷島のおと濃^い點^いもりのた^いとて甚薄し
 漸々奥地に至ると從つて文身せざれもの多し其垂髪^{いけ}の状

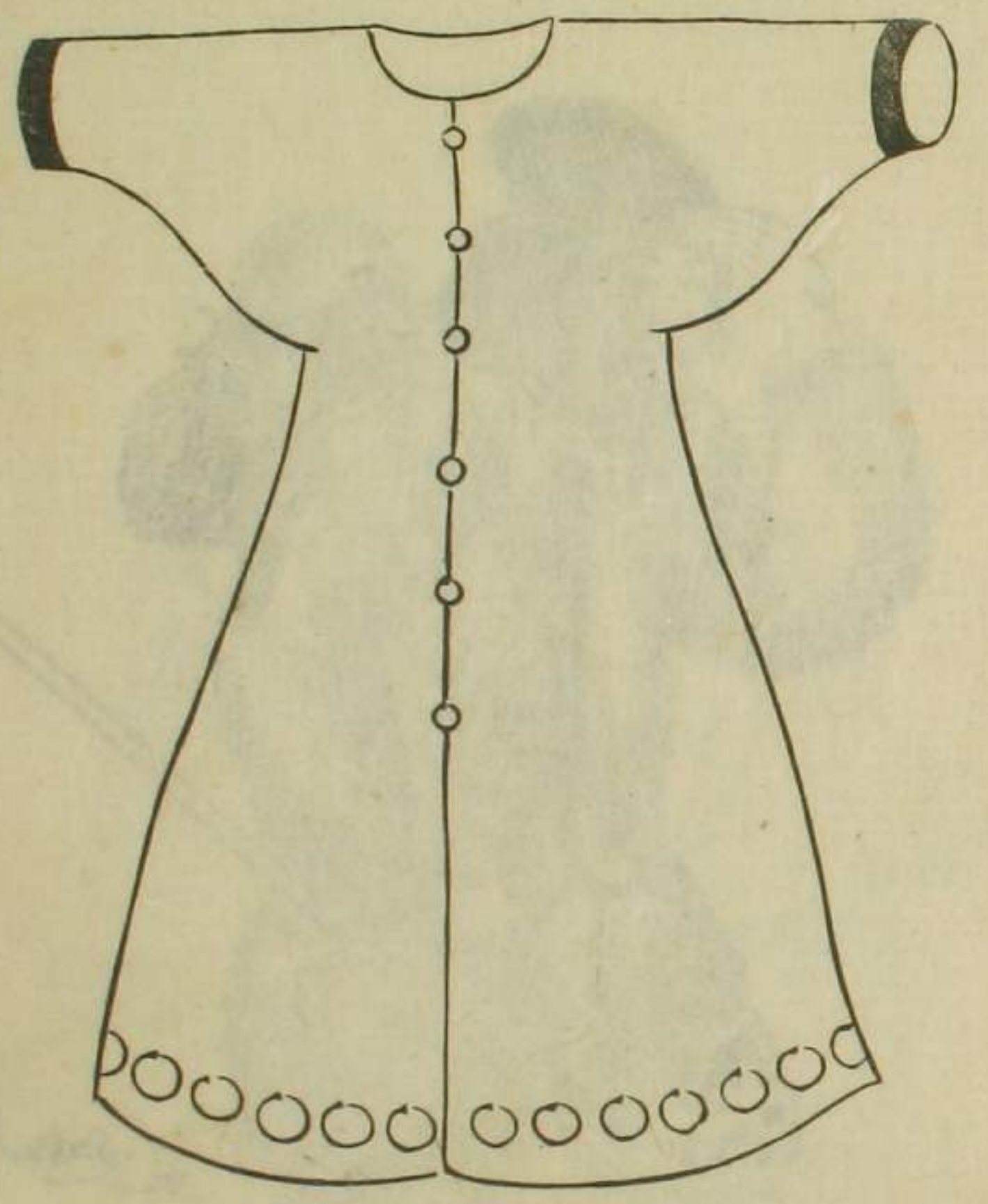
北蝦夷圖說

卷之二

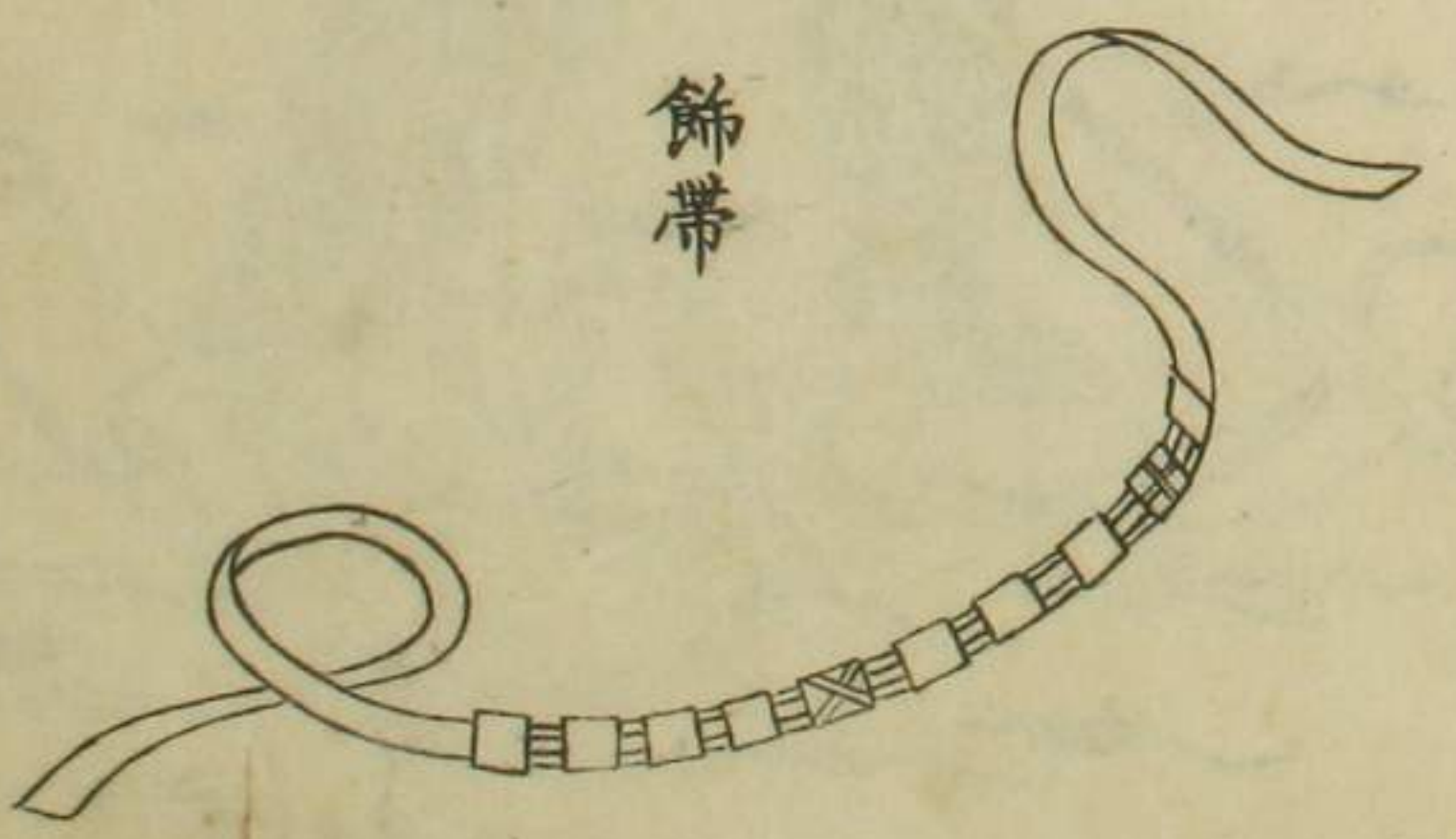
蝦夷島より長き肩をおり其容貌蝦夷島小比にて
艶色の者多し

一 男女衣服ハ蝦夷島小比にて木皮布と製して服となし
とてども所謂ヲヒヤフ○テカツフ杯称はるもの此島多
く産せどもバ以て島夷の服と成らざるは故にモ一セと
称せる草皮と剥ぎ取水晒紡績して糸と製し布と造る本邦
乃麻布に似て是を名づけてテダラベといふ此島の造り
出以布帛の類只此二種小限る木綿衣の類も服はるものと
悉く山丹夷の齎り来て交易せしむるところの物或を本邦の送
るやころしめて地産のものありあはれ其他は魚獣皮と以て

女夷飾服圖



飾帶





奧地夷圖 其一





其二



滿州服の製と模製一是と服と云

一 男夷を蝦夷島小異^アたる盛飾の服なり女夷は圖の如く
たる飾服飾帯と用著^ハ山且夷^ハ此齋^ハ志^ハ東^ハる^ハころ^ハ乃^ハ物^ハ真
鍬^ハと^ハ以^ハて^ハ製^ハせ^ハ物^ハなり魚^ハ獸^ハ皮^ハの^ハ衣^ハなり^ハども^ハ大^ハ抵^ハ是^ハと^ハつ^ハけ
て^ハ飾^ハと^ハあり

一 木皮布デタラ^ハ一^ハ共^ハ小^ハ其^ハ文^ハ繡^ハ蝦^ハ夷^ハ島^ハ異^ハたる^ハ亦^ハや^ハ大^ハ抵^ハ圖^ハの^ハ如
一 其^ハ紅^ハ縮^ハ藍^ハ錦^ハハ^ハ悉^ハく^ハ山^ハ且^ハ夷^ハの^ハ交^ハ易^ハと^ハる^ハと^ハころ^ハの^ハもの^ハあり
一 奥^ハ地^ハ小^ハ至^ハる^ハ小^ハ從^ハく^ハ人^ハ物^ハ何^ハや^ハなく^ハ南^ハ方^ハ初^ハ島^ハの^ハ夷^ハと^ハ少^ハ異^ハふ^ハ
て^ハ其^ハ顔^ハ色^ハ容^ハ貌^ハ自^ハ然^ハ小^ハ殊^ハ俗^ハ乃^ハ夷^ハ風^ハを^ハ移^ハせ^ハり^ハ故^ハ小^ハ冬^ハ月^ハの^ハ此^ハ犬
皮^ハの^ハ衣^ハと^ハ服^ハ一^ハ水^ハ豹^ハの^ハケ^ハリ
履の類松前方言か
ふいふいふいふを^ハ注^ハけ^ハ熊^ハ皮^ハの

巾と蒙^ハる^ハる^ハ様^ハ々^ハ異^ハ俗^ハの^ハ者^ハと^ハあり^ハむ^ハく^ハ多^ハくと^ハ云

一 極寒の地たるゆゑ小島夷長少となく魚獸皮を以て^ハ時^ハ衣^ハ履^ハ
襪^ハと^ハ製^ハし^ハ著^ハし^ハ蝦^ハ夷^ハ島^ハ徒^ハ跣^ハの^ハ夷^ハれ^ハと^ハも^ハあり^ハ故^ハ其^ハ俗^ハ一
般^ハの^ハ異^ハ状^ハあり^ハと^ハ云

飲食

一 飲食の事大抵蝦夷島と異なるあり^ハ只^ハ其^ハ草^ハ根^ハを^ハ貯^ハふる^ハ
と^ハ夥^ハく^ハ海^ハ獸^ハ乃^ハ油^ハと^ハ食^ハと^ハる^ハこと^ハ甚^ハし^ハ是^ハと^ハ異^ハと^ハり

一 獸肉^ハあり^ハて^ハ食^ハら^ハる^ハ物

- トバ 水豹 犬 獺 獺 ホイヌ ト十カイ リキ
- ンカモイ

一 魚肉にして食する物

鮭 鱒 鮠 八千ユツキユツ アルコイ 其他雜魚

一 草根ふちく食する物

キトー ハツプ イレラウ トマ シトリキ十
 イチラホ ウニシコ キマキナ イケマ イカノカ
 イ ライベウシ一名モシ ホメシユ一名ヲ チンラ
 タ一名ルー トレツキナ一名 ビンキナ イテレタラ
 フーウレツ一名カ タム アン子カ ウ子ハム チリケ
 シ シラクチ ハビドン イマウリ チクイラ カ
 ツ、フ シヤツクトレツプ チユツクトレツプ

一本實より食する物

シケレベニ ニセウ

大抵草根の食と云ふものは、春夏秋の間は取来て乾曝し倉中ふ蔵して冬月の貯と云ふ皆女夷のたぐひと云ふ

一 草根木實の如きと寫生と其形と得たるふあはれハ用と云はれ故に圖と出はれんと得じ

一 煮熟の法大抵水煮れ物多し其鹽味を用る物ある時ハ大に洗薄ふて濃鹹の物と忌む

一 大抵の食物海獣油と云ふいで是と喰ふ其故と問ふは諸草の内或る毒物あつて腹痛と云ふことありて獣油と云ふいで喰ふ

時ハ絶て其更かりと云故ニ獸油ヲ 本邦の曾醬のこごとく
ふして一日もたぐんば有べし

一 夏月中不獵の時ハ冬月に至て獸油盡るこゝあり其時ハ斧小刀
其他何よも古釘破鍋の類と持て犬と引つれ奥地異俗
の夷地へ入て獸油と交易ト獸の腸平生貯置て盛小盛
油の器といて是と挽いり積雪劇寒多きとつて帰來
ふと云是一日もあらずと云ふ物なればなり

一 此島ハ極北の離島なり故也是迄松前家の教育蝦夷島
ふひてハ大ふ疎なるふ似たり必抱番屋や称らる者東ハ
ウフイトマリ地名西ハヲラウ子トマリ地名中ち是と設て其

奥地是と置び又蝦夷地おひ名小使や称らる者此島ち是と
設るとちも僅小東ちシレト地口地限ち西々ヲニツホ地名
ふやちも其奥地是者と置び故ニ奥地の夷ち蝦夷島の属
島たることち知らざり者あり且夷人の住居其島と定め
り任ちは是彼小迁移ち鯨寡孤獨の夷ち至ちてハ猶更親
族ち脱ちの差別もなき我心ち任ちせて此彼小同居ち故ニ林蔵
其人數と改る時詳ちしるちあやちかちと云

東海岬ちヤシ地名ちタライカ地名小至るは間ニ夷家凡三
百十四屋居夷男女と合して二千四十一人
西海岬ちシラヌ地ト地ヨナイ地に至るの間夷家凡百二十

四屋居夷男女と合して凡八百六人

通計家數四百三十八屋人數二千八百四十七人

一 奥地ヲロツコ。スメレンクル夷の居負人數を考へて至るや、
 るところあるふ言語又通下ざる況ヲロツコ夷の如きハ
 其居所を定めハ水草を追ひて轉移せしむる多々なり其詳
 たるをを見聞せしむること得ざれとも大抵其負數概算す
 る小蓋一全島中の居夷を十分ゆて其七分小居とぐ一其
 俗蝦夷の如きもれら僅小其三分一なり了と云

居家之部

一 北島南方五六十里乃地々居家の造法総て蝦夷島小異る也

とかり奥地小至るべくハ異俗スメレンクルの居家に類せしむ
 者ありと云ふも十にして一二ありのみ

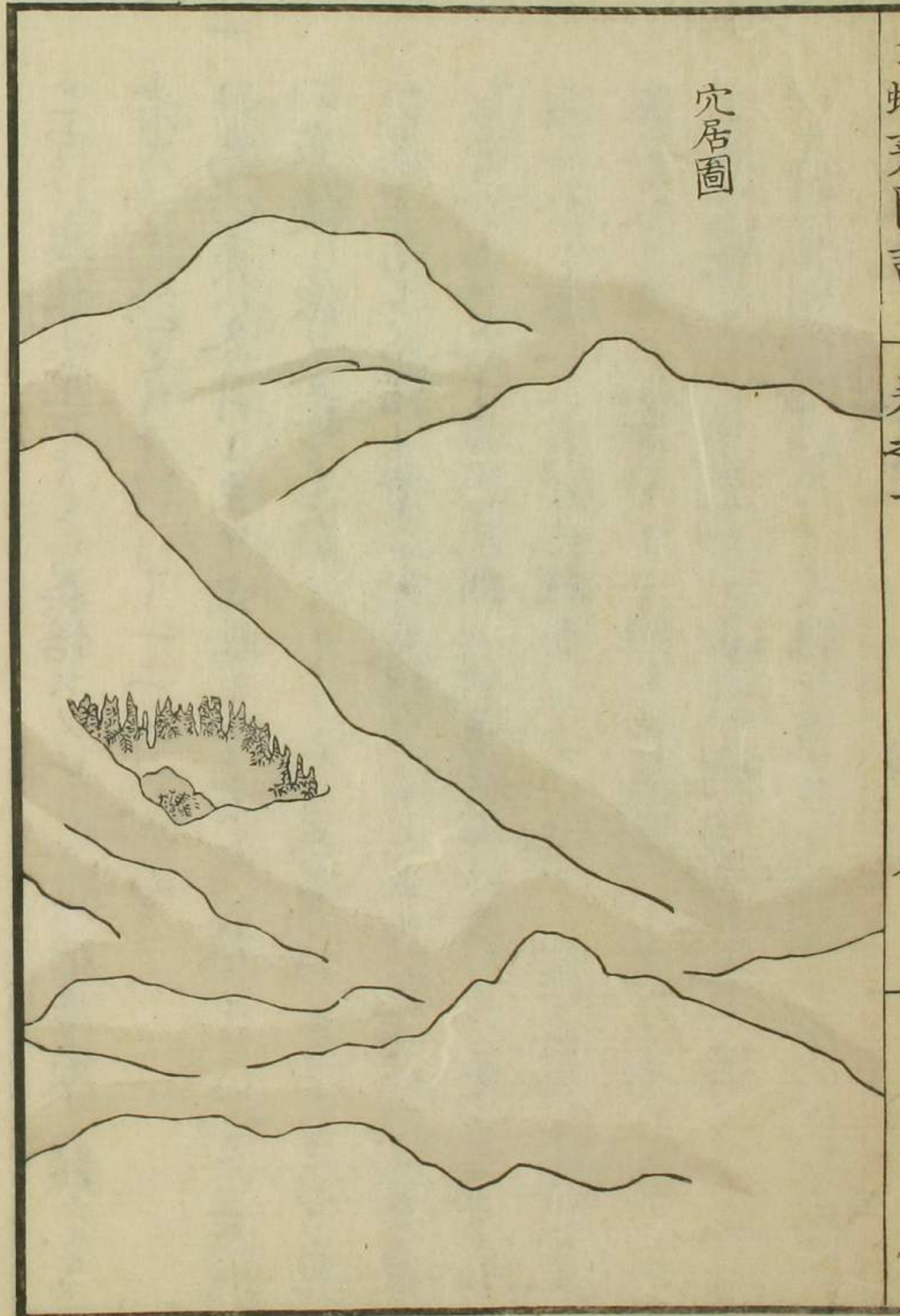
一 此島の夷ハ冬月に至て穴居せしむ者あり然るも其地
 の寒煖は依て是とありしむ一島夷総て是とありしむ非
 び其穴居せしむ者も實小寒威堪らざる止ることを得ば是
 とありしむ九月の比既小積雪の時小至るは是と造る其
 内小入る春二三月ハ比積雪いさゝか解る前穴と出て平
 生の家ニ居ハ如斯せざる時身疾病と云

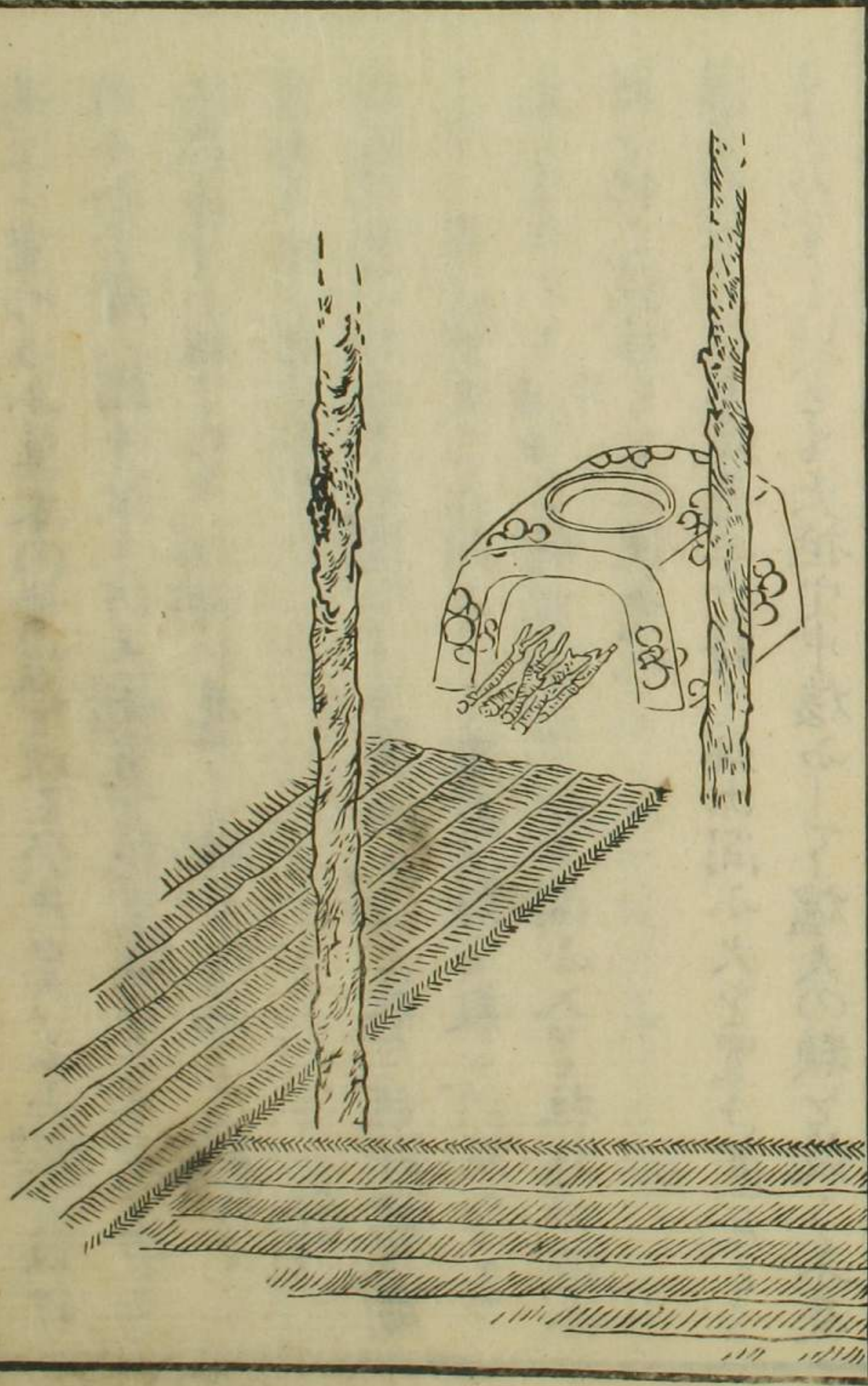
一 穴居を製するの法先山小添りて地を掘と土を掘るや凡三
 四尺許其内小圖の柱と立屋を覆ふ木の皮を以て

重田探齋筆

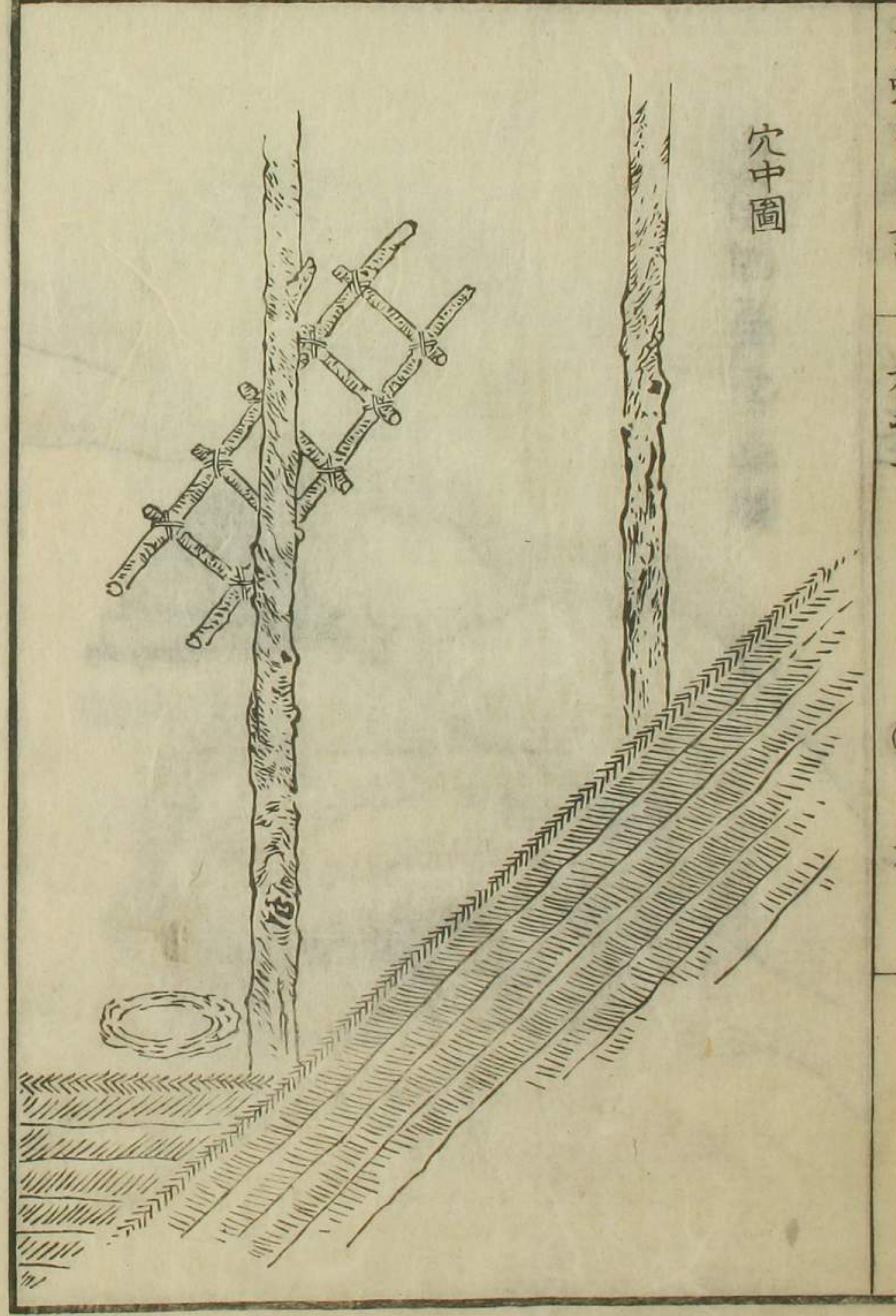


穴居圖





穴中圖



其上より重めたる草木の葉枝を以て戸口乃至小庇を設け
内へ入る處ハ階子とつけ其側竈を他竈中より穴を穿て
家外廡下小堀にゆき炊煙の屋中より鎖を忌として此穴より
家外より出づる

一 穴の内柱の外三方小簾とす其上より筵を敷て起臥する處
となり家内中央より土間より席筵の類を敷るは是外より
来るものケリ履出と脱せしめて此土間小入り柱外の筵は
腰を掛けて談話するに便す

一 嚴冬積雪の頃寒威甚き時此土間小火を置き圍居る
ことありとも大抵穴中煖より爐火の類を設る不及

ぢり只ウシヨマフと名付たる石器を置て火を貯へ煙草
の火となし

一 日用の雜器或は飲食の物と貯る小穴外の廡下より閣を設て
其處となり其他寶貨は諸器物貯糧の類ハ悉く倉中より蔵は

器械部

一 鍬釜ハ大抵本邦の渡りところの物を用ふるは奥地小
至り山且製の物を用ふ大小種ありとも大抵其状
圖の如く

一 地夷製は所の土鍋あり大抵の大き徑は六七寸あり形
圖の如く西邊の握耳はたゞ内邊に設くトナリ皮を以て製

繩ヨロの一を以て弦となり火の焼切せんことを忌れて樺木皮と纏ふこと圖のおやく

一 土鍋製造のおやく 林蔵詳ふ此小載るやく 汲得び夷言もと土鍋と指さすトエレユと称ひきども島夷ハ是と忌てカモイレユと云其事實ハ詳よでざれども神鍋と諳ひ

一 椀まの大抵本邦の物を用ふ奥地小至て夷製のものあり形圖のおやく

一 此島用ふところ此船夷のみづつ造るるところなり其形圖のおやく 産物部よ云如く良材を此島をれむ柳の類或る夷称ヤエニなる物と以て是と造る其板甚く薄く柔軟小

ちく危きこと 蝦夷船は越たす其製造のおやく 船具の如きは 蝦夷船小異ること如

一 船ふね此島の専用と云るところの物なり其形蝦夷島は異つて繩いとトナリ出と用ひ杖え木と以て是と造る其末鍊くわと以て是と巻き釘くわと出履板ぞうり圖のおやく

一 鎗や本邦山且の物と雜用ひ柄長々凡六七尺異形の物なり

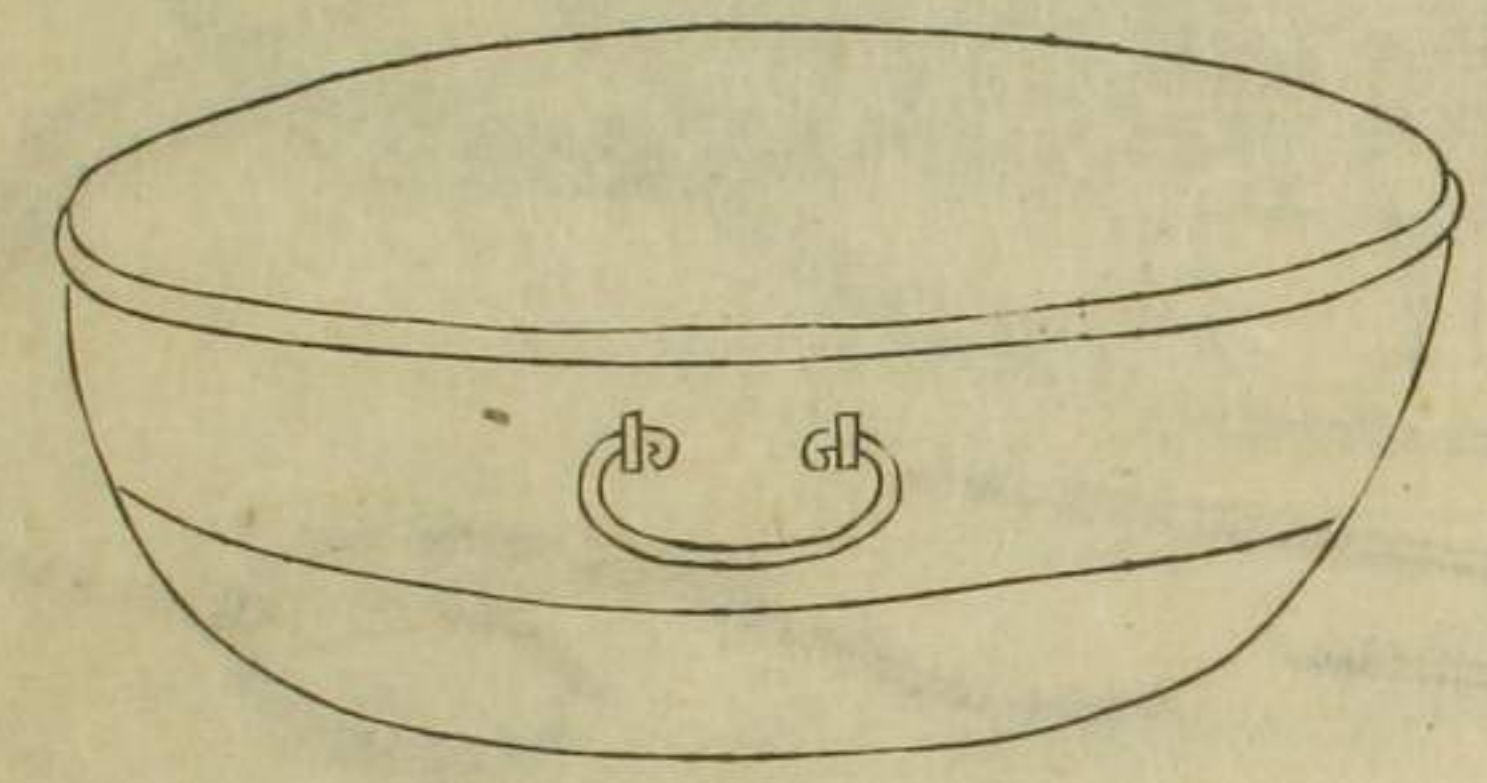
一 此地弓矢の類皆蝦夷島の用るやくところの如

一 其他日用諸雜器皆蝦夷島の用るやくところの如

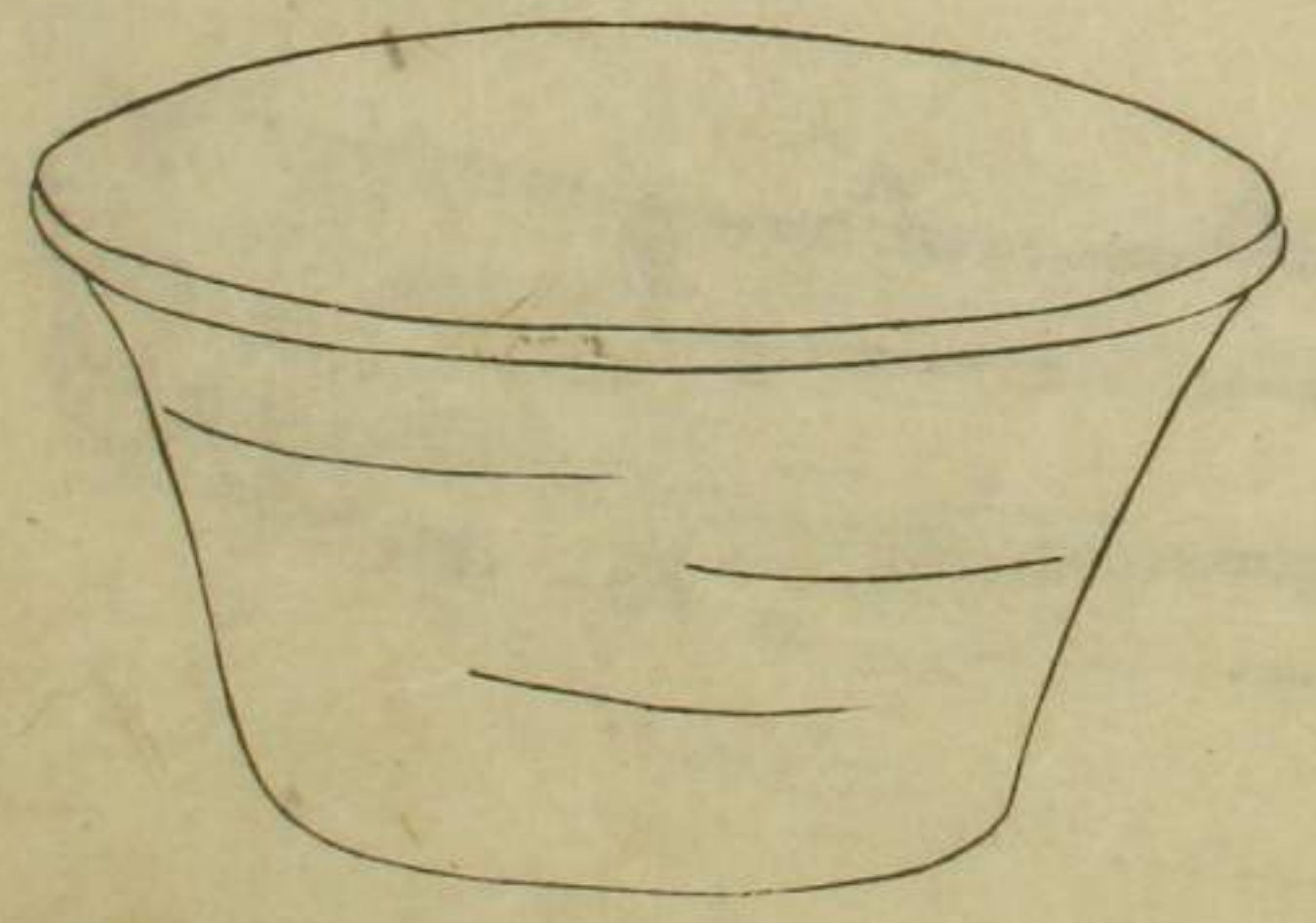
産業部上

一 此島の夷生産の第一事と云ひものち犬ちち貧賤の夷ハ其

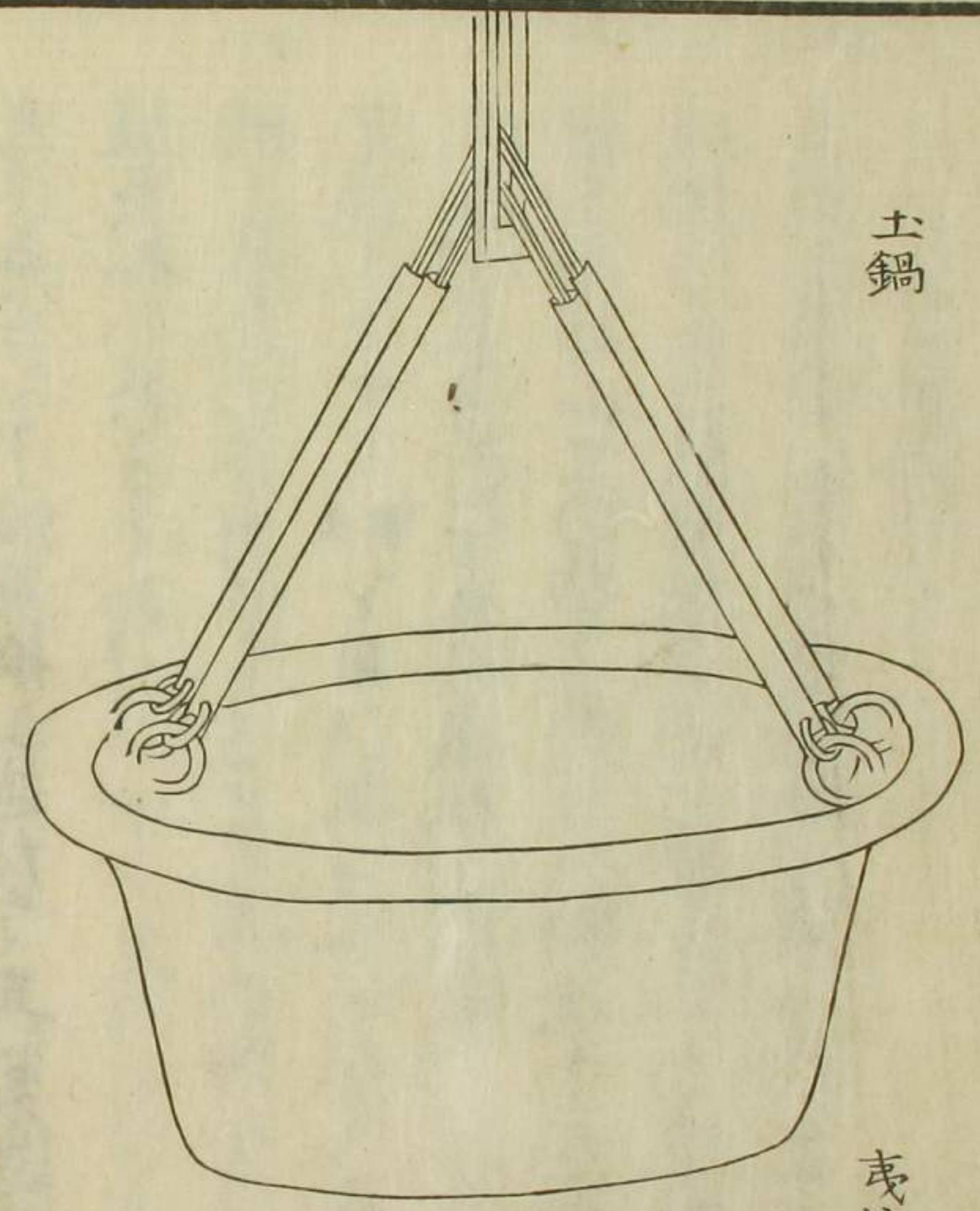
山且金



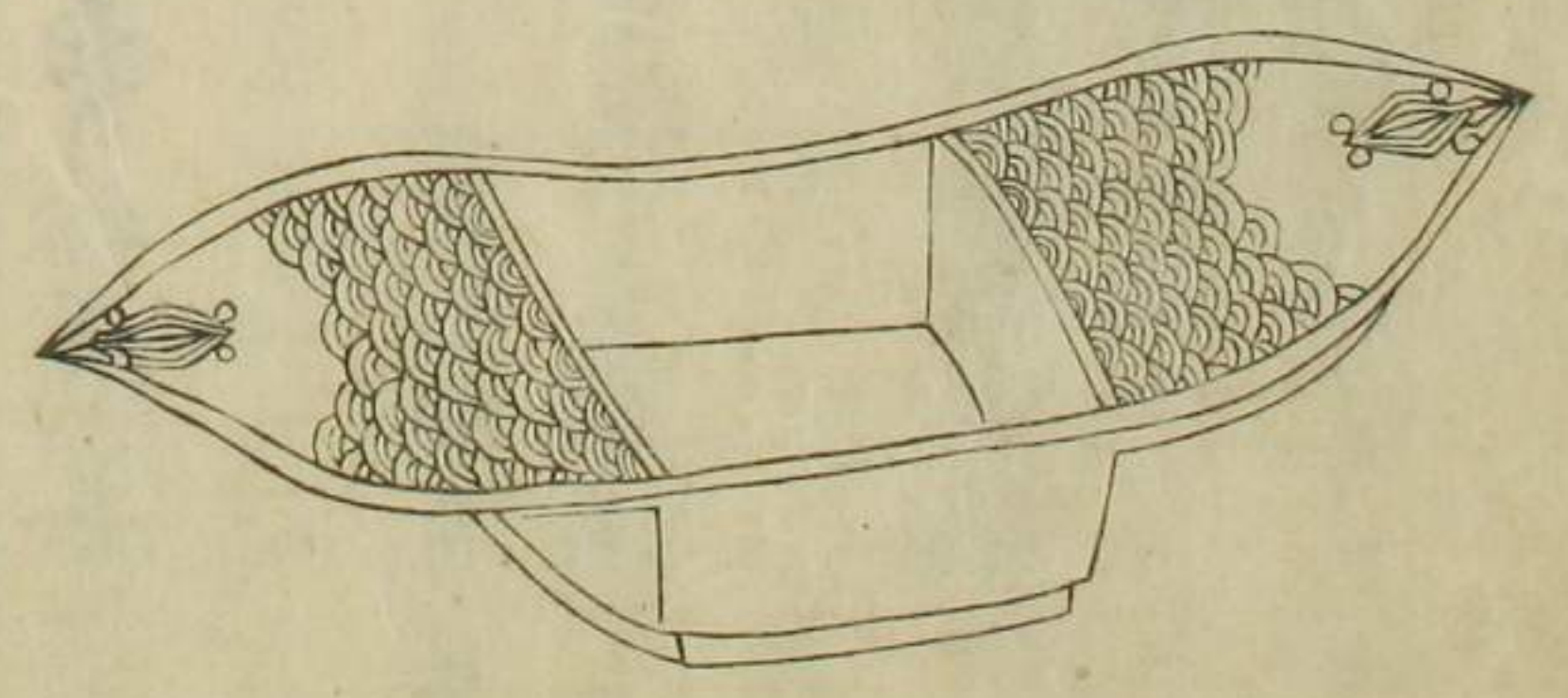
同

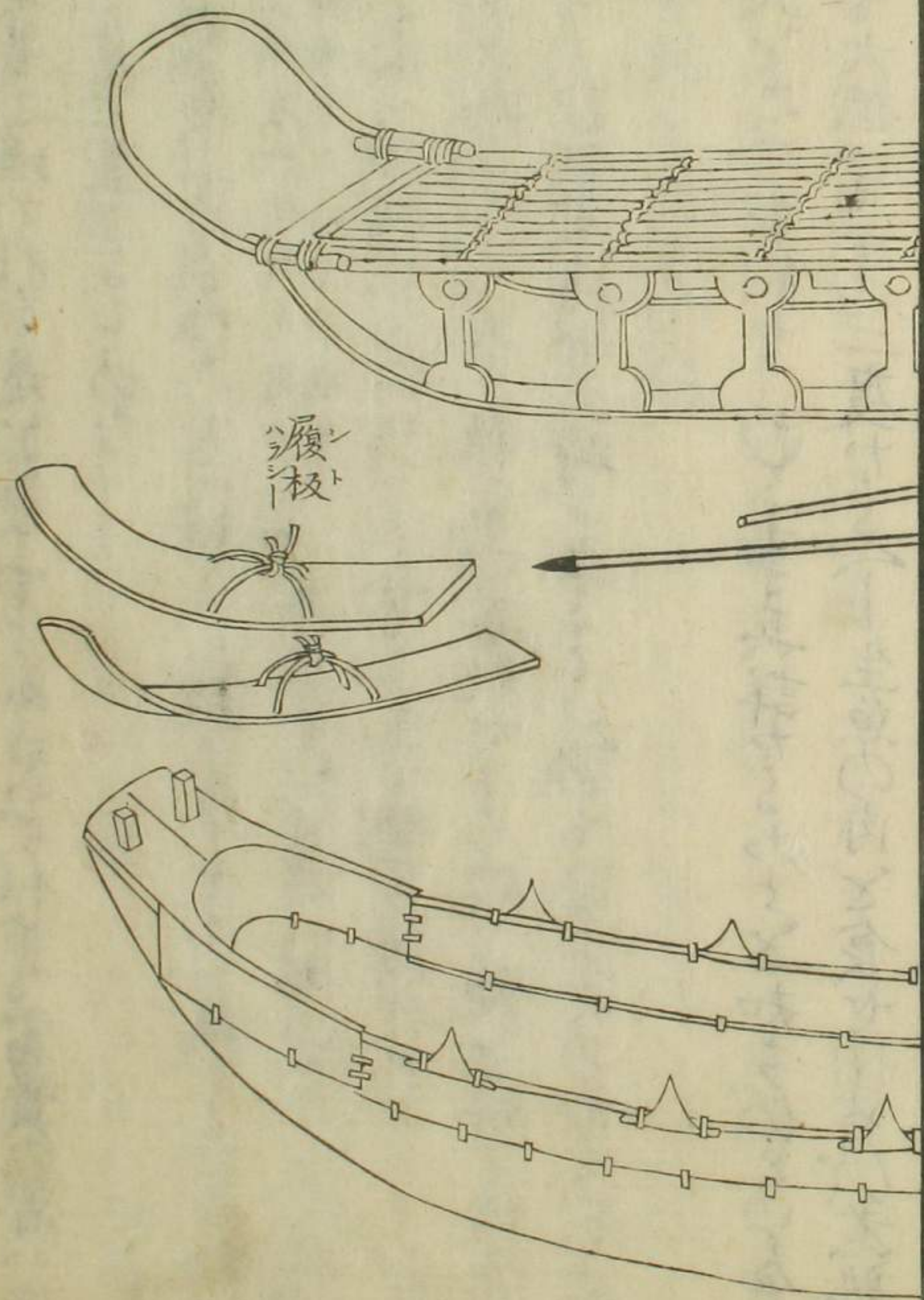


土鍋

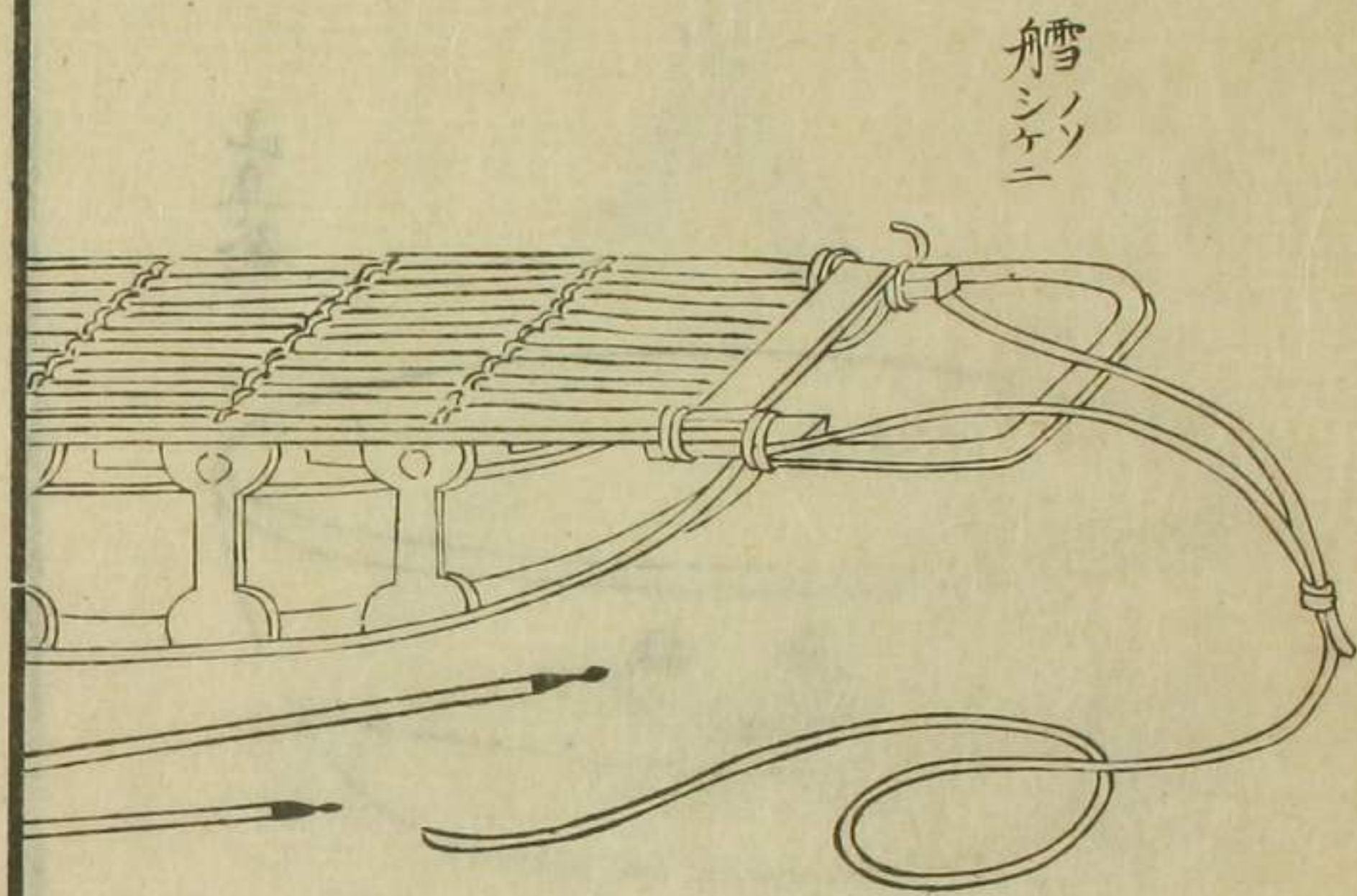


夷碗





履板



船シケソ

船圖

失費不堪されど是を養ふとあつたがれども富貴の者ハ家
、是と置ざるものなり

一 家養ふところ乃犬大抵五、六頭より十二三頭乃至是其用と
なり者此他壯犬兒犬の類 其生平飼置所ハ園のごとく庭砌
律養せざるもの猶多し 小木と建横木を結び一犬毎り是と繋ぎ漫行せざりしむ若
其大病するり又々精氣の虚脱せしものも縄を解て隨意に
らむ嚴冬積雪の時に至るといふども皆この如く別子牢
と設るものと見ゆ

一 犬とて食飼せしむる事其詳なるおとを知らばといふ魚ど
も大抵一日中二度かゝるべし生魚の肉と食せしむる者熟之

てニマムと称せる木器を盛て二三犬とて同食せしむ然
しむる大と放つて自ら食せしむることなり 其時ハ夷自ら
縄縄と解し是と曳て食物の所不至り食終るの間杖を以
て其後ふる其奪食咬噬する者と撻て忘陵のこゝたりしむ
一 犬兒と養ふ支縄を以て繋ぐこと初のこゝく食餌も又同と
いふとも魚骨と去り肉のみ小く裂て是と食せしむ
一 此他犬小犬小限らば撫育の懇至なるをや枚擧げしむるに
實小兒と養育しむる如し故小犬乃夷と慕ふことや小兒嬰
兒の母と慕ふこととく晝夜其側を離るることなく夷等出
行する時其前後必兩三頭を従へ夜々夷等の側小伏し椀



畜犬圖 其一



其二



中の物を分て是と喰いめびぐさる様々實小禽獸と同居の
 子ものや云々一見夷の嬉戯多く犬と弄一圖の如く人乃見
 と負ふごとく衣中小入し是と負ふ犬見し念晏然として
 衣中小あは是念愛育の状を察じく小足斗て

一 兎犬漸小長ドて後其猾猛なる者と揆て家狗となり其懦弱
 ありて用は堪ざるもの或は牝犬乃小懦ありて乳せしむべ
 かりけるものは悉く殺して其皮と取り肉と喰ふ

一 犬兎漸小長ドて後甚志た淫太く悉く陰囊と破りてその陰
 卵と取去る是其安淫と禁じ其肋骨を強くせしむると云

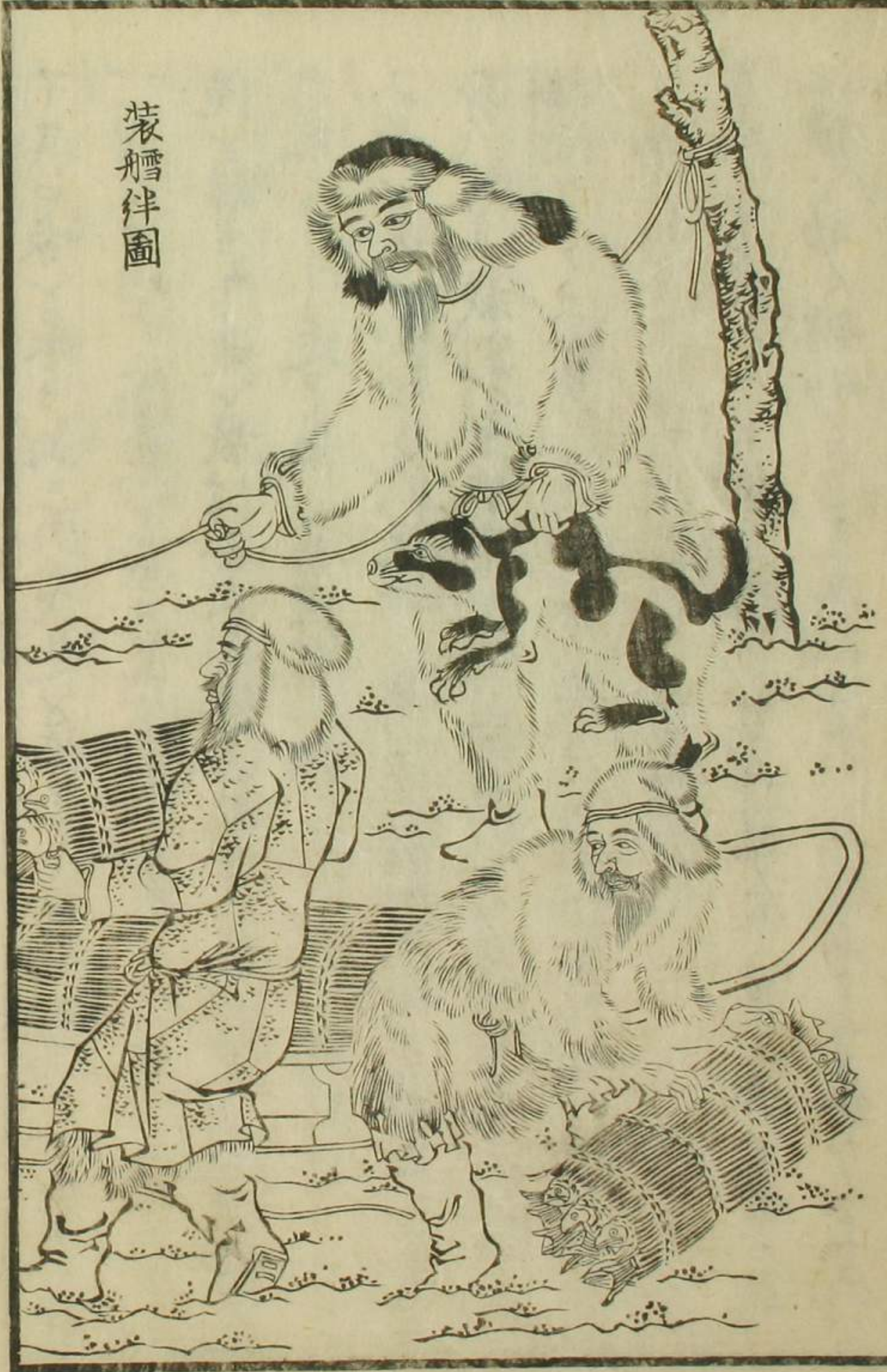
一 陰卵と去るの方圖の如く犬の四足と本小束縛し又繩を以

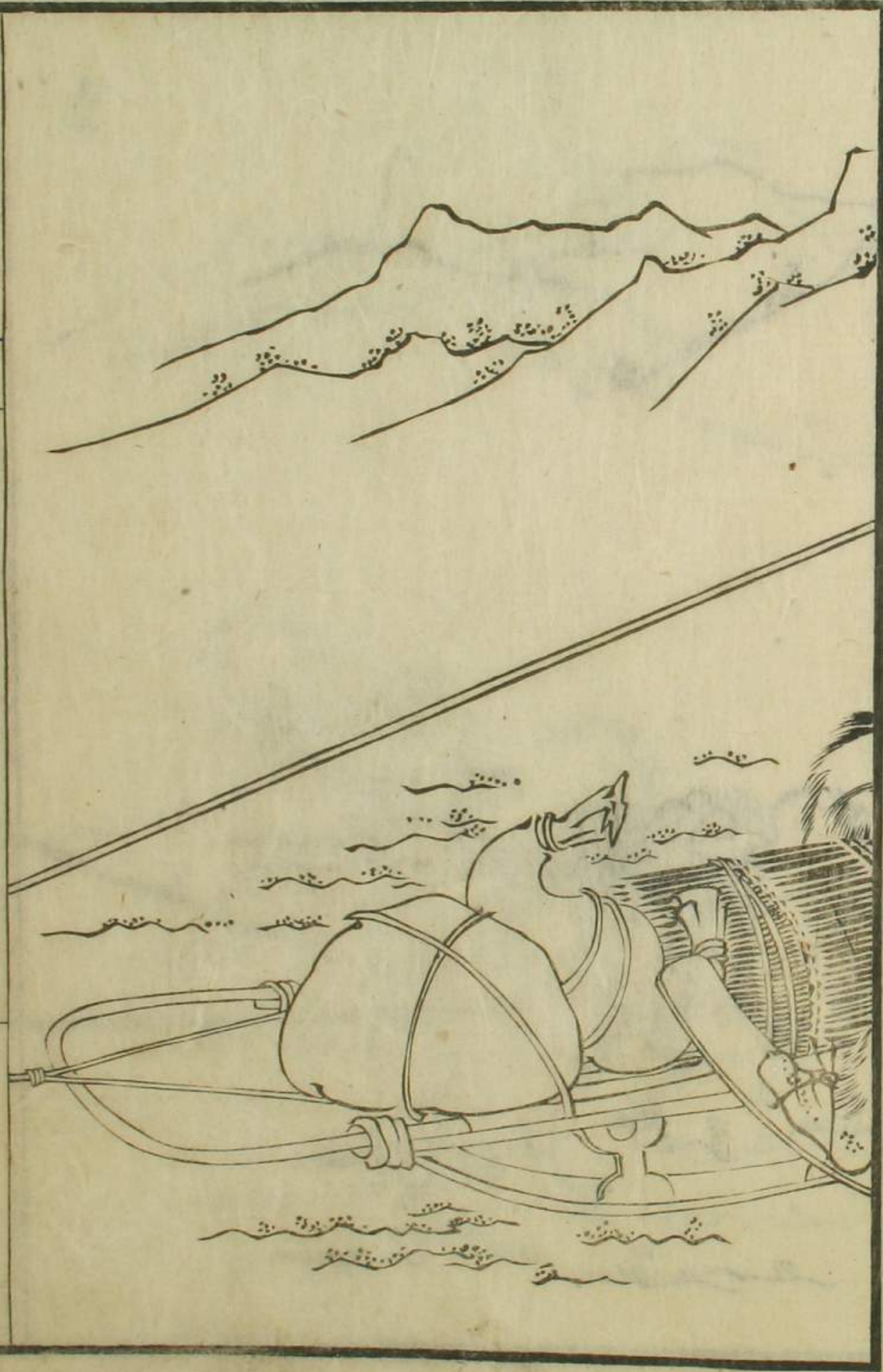
て其口喙と巻き兩三の夷是と擁さる動揺跋躍せざりしめ
 一 夷刀を以て陰囊と裂き其陰卵と取出して是と去り直ふ
 繩と解き是と放し小犬痛傷の趣なく暫時其刀痕と嘗め
 忽然として走り去る其後常小異るあり然しとし安り
 小是と去るむは天時と考其狗の生質と按きて是と
 あり若其裁割の術拙なる時即死する者あり故小此事小
 熟練せざるの夷は是とちるひあやと得ん林蔵其詳なること
 と聞されし其方と陳わることを得ん

其用するところを船と挽しむるを第一なり又船と牽き
 山獵と助く船船としり其馭法大小巧拙ありて拙なるもの



裝艚伴圖



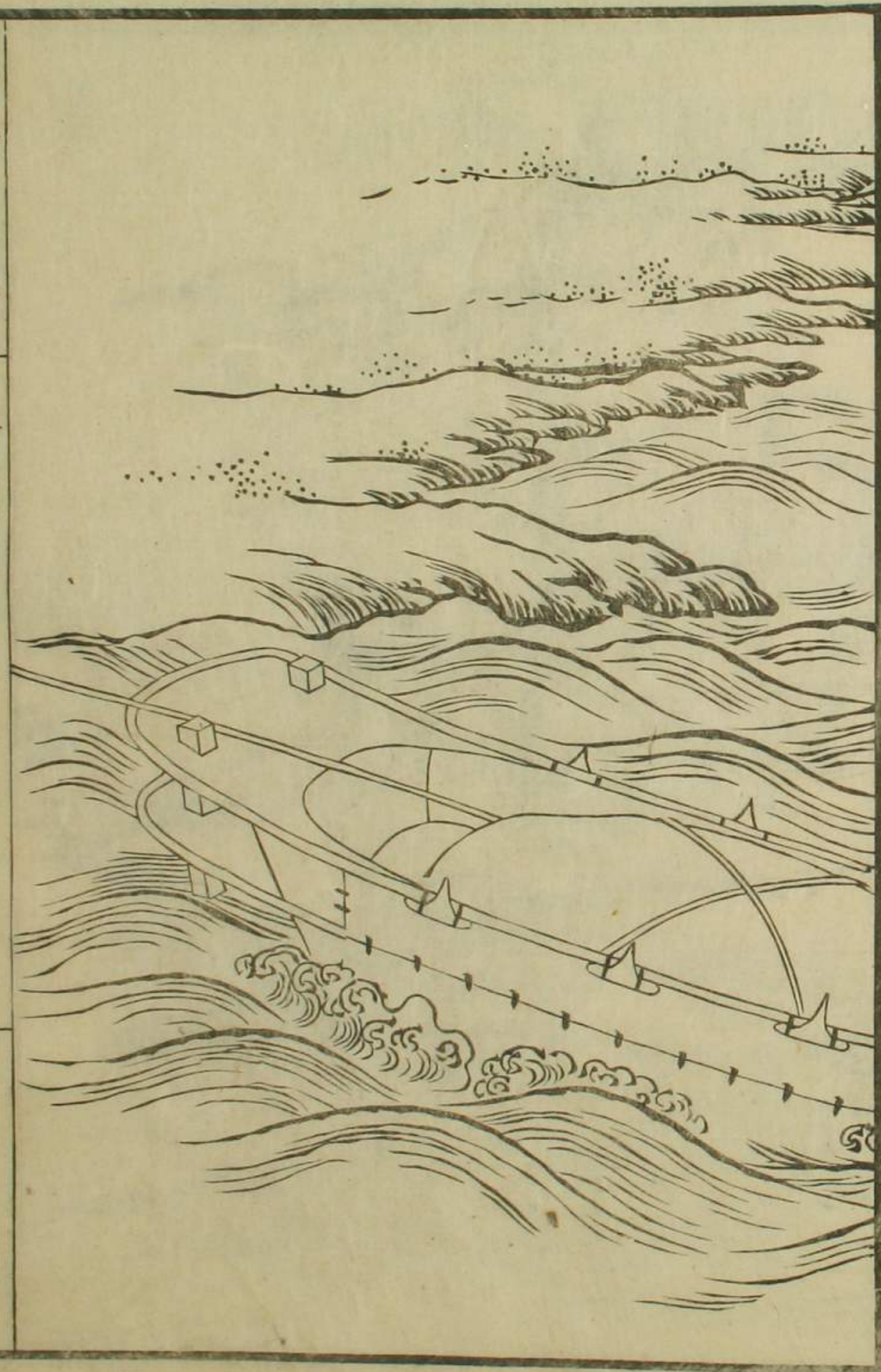


使大牽船圖



其二





使犬挽船圖





其二





部落中近歩圖



漸く四五疋の犬を用ひ巧なるものち八九疋十餘疋といふ
 ども是と駈此島の犬と見るふ其性本邦の犬と異なるが如
 くわて物を挽くことを悦ぶの情ありと云艦舟は限らば
 挽きあひと欲する時も圖の如く先犬と連繫して二本を繫
 ぎ置き牝牡を論なく細とつくる時を忽ち前行して挽繋ひ
 故は三四頭を連繫する時ハ一二人の力と以て留べ
 ろうべ故は装するの内既小連挽するを頻々ふして聲を
 本を伴ひ装するの内既小連挽するを頻々ふして聲を
 駈一跂躍ひ装成て植木の縄を解と待び去て馳出ひ矢
 の如く一艦七八頭とて挽きあひる時ハ一日中十七八里と馳
 らるべし

一 駈術を圖の如く西本小本杖と持てて艦の上小跨居こま一犬差

馳傍行する時ハトウくと云聲と發し艦觸る處ある時
 を杖と地中小刺し是と當む地勢中小云々如くわる海岸
 の氷地と馳驅するこわくふ砕氷を其上小磊とて轉
 びたれが艦常小動揺ひること甚し故小暫時の間も目を放
 ち心を安むるのみまがし一度其馳を誤る時ハ艦忽ち轉覆
 して其身雪中小投り氷上は傷るのみまがしハ艦何地へ
 引行き幸ふ木の根岩角かどあつて其艦轉滞して如何程
 小引とてども行つていづるも艦を悉くやら積むところ
 かり其幸を去て留つていづるも艦を悉くやら積むところ
 の物を總て破却し繩を衆犬の足ふらして漸く去り追付其

處不至了得ると云ふは是を修理と云ふこと容易のことふ
 あらひ林蔵時と犬を馴してみづら此艱苦を知ると云
 一舟を挽きしむるも大抵如斯といふも其心を勞と云ふこと頗
 少といふ

一多力猾猛なるものありて能挽曳のあつたる犬を連
 頭小置して挽きしむ是と名付て前道犬と称し島夷此犬と擇
 むことを専務といひ此犬ありき時ハ衆犬情逸して其用とる
 さび故ふ是と交易はるこやあるふ其價大抵斧三頭より高
 價の者も五六挺小至る

一島夷ハ近所小行やいともさつらひとさつらの雜器ある時

悉く艦を積りて犬として是と挽きしむ其道近き時ハ兎犬牝犬
 論なく更ニ犬と擇むあやかう犬弱く路難うして挽得ざ
 る所ハ夷等助け引て其所に至る

一山獵小用る時ハ能猛獸と戦ひ深山幽谷小入る諸獸と追出
 一夷等の助と云ふこと拔擧はるふ違あらび

一家狗の病とて死するものも只其皮と取のふして其肉を
 くらひ

北蝦夷圖説卷之二終

此圖之圖說
北地夷圖說
卷之二
七

